

平成27年 3月 6日

恵那市教育委員会
教育委員長 龍田 和子 様

恵那南地区中学校あり方検討委員会
委員長 鈴木 峰夫

恵那南地区中学校のあり方に関する提言書

標記の件について、平成26年6月6日に教育委員会から当委員会が依頼を受けた2つの項目について、当委員会の検討経過を添えて下記のとおり報告いたします。

記

1 提言

(1) 恵那南地区中学校の適正配置条件について

当地区の5つの中学校は、いずれも生徒数が激減しており、この傾向は今後更に加速することが予測される。従って、早急に改善を図る必要がある。

中学校3年間においては、学習や部活動等の諸活動を通して人間形成を図るうえで極めて重要な時期であることから、ある程度の集団の中で切磋琢磨することが必要な条件である。

(2) 学校の統合について

現状を鑑みると、減少傾向にみられる恵那南地区の将来の出生数から5つの中学校を1校に統合し、各地区の平等性を考えた位置に新設することが望ましい。

この統合を進めていくうえで、当該地区の住民や保護者への理解を得る必要があることから、次年度以降は「恵那南地区中学校再編検討委員会（仮称）」を発足し、早期に統合の時期・場所・通学方法等について調査研究、協議を行うとともに、当該地区住民への説明と意見聴取を図る必要がある。また、今後発足される委員会での協議方法としては、専門的な知識を必要とすることから、教育委員会の提案を基にした協議が望まれる。

2 提言の理由

(1) 恵那南地区中学校の現状

恵那市の小中学校児童生徒数は4,198人で、恵那市の人口53,405人の7.9%です。恵那南地区小中学校児童生徒の人口割合は、18,812人に対して1,304人の6.9%です（【資料1】参照）。

また、恵那市の高齢化率（平成26年12月1日現在）は31.16%で、少子高齢化は恵那市のみならず、全国的な問題となっており、人口推移からすると平成47年度の恵那市の人口は38,900人となり、本市も消滅可能性都市の一つに挙げられています。

恵那南地区の中学校の生徒数は、平成 26 年度の生徒数 487 人に対して平成 38 年度には 316 人に減少すると推定されており（【資料 2】参照）、平成 25 年度の出生者 81 人が平成 38 年度には中学 1 年生（【資料 4】参照）となることから恵那南地区の少子化は、今後確実に進行していきます。

恵那市内の中学校では、標準学級数である中学校は、恵那西中学校（12 学級）と恵那東中学校（13 学級）のみであり、平成 9 年度に 3 校が統合して新設された恵那北中学校は 10 年という年月を費やし統合しましたが、現在は少子化によって全学年が単学級となっています。

恵那南地区の中学校は、【資料 2】で示すように平成 26 年度においては岩邑中・山岡中・明智中が複数学級、串原中・上矢作中が単学級ですが、生徒数の推移からみても、現在複数学級である中学校が単学級となる学年が今後できてきます。

教員定数は、学級数に応じて岐阜県教育委員会から配置される（【資料 3】参照）ため、小規模の中学校では所有免許外指導や非常勤講師による指導をせざるを得ず、更に定数以外の加配教員も今後は確約できないのが現状です。このことは、子どもたちに確かな学力を身につけさせることができない状況につながります。

部活動においても、【資料 5】にあるように限られた種目を選択することしかできず、特に集団で行う種目をやむなく廃部にしていかなければならないなど部の存続問題、更には合同チームでの参加や学校区を変更してでも部を継続したいといった要望もでてきています。

（2）目指したい教育環境

中学校 3 年間は、人間形成を図る上できわめて重要な時期であり、この時期に恵まれた環境の中で教育を受けることは、その後の人生を左右する大きな分岐点にもなります。このような時期に生徒にとってよりよい教育環境を提供することは、われわれ大人の責務でもあります。

人はより多くの人の中で育つものであり、より多くの人とのかかわりの中で生きる力を培っていくものであると考えます。多様な価値観に触れながら豊かに学習すること、より多くの仲間と切磋琢磨しながら心と体を豊かにしていくこと、仲間と教え教えられるながら学習していくことは、好ましい集団の中で培われていくものです。

先述したように、今後の恵那南地区 5 中学校の生徒数は確実に減少し、その規模は年々小さくなることは避けられない事実です。それにより、「すべての教科において専門性のある教員での指導が難しい」、「少人数での豊かな仲間同士のかかわりあい難しい」、「少ない部活動で自分のよさを発揮することが難しい」といった生徒の育ちにいくつかの障壁となり、生徒一人一人への確かな学力、豊かな心、健やかな体を培うための教育環境として決して好ましいものとは言えません。

文部科学省は、標準学級数（12 学級～18 学級）を定め（学校教育施行規則第 41 条及び第 79 条より）、この規模が 1 つの学校として教育効果が最も期待できるとされています。また、教科担任制をとる中学校では、全ての教科で専科教員を配置するためには、1 つの学校で最低 9 学級以上が必要となります。これらを踏まえ、恵那南地区の出生数から、当該地区の中学校の規模は、文部科学省の標準学級数には満たないものの、1 学年 3 学級以上の規模が適正な教育環境と考えられます。

（3）地域住民の意識

教育委員会事務局により、関係地域・PTA・保護者を対象に説明会が開催されましたが、どの会場も参加者は少なく学校再編への関心は高くありませんでした（【資料 6】参照）。地域において

は「まだ先のこと」「この問題について、まだその気になっていない」「いつかは誰かが考えること」「行政や地域のリーダーが考えること」等の意識があると感じました。

また、地域住民の中には、自然や少人数である環境を求めて定住する世帯も若干あり、居住に対する価値観も様々です。

新恵那市市制発足 10 年を迎えた現在でも、合併前の旧町村内のつながりが強く、学校は地域の要という意識があり、学校が無くなることで地域の衰退につながる不安から統合に強い反発があることも事実です。そのため今後は、保護者をはじめ地域の皆様に小規模校のままにしておくことが子どもを育てて行くうえでプラスになるのかなどを踏まえて情報提供を行い、恵那南地区全体の問題として捉えなければならないと考えます。

(4) 今後の課題

◇統合の時期を検討する上では、平成 31 年度までの合併特例債の有効活用を考慮し、恵那南地区の中学校の統合に向け調査・研究を図り、早期に具体的な方向性を示すよう努めることになるが、地域住民の理解を得ながら検討していく必要がある。

◇実施時期については、恵那南地区中学校再編検討委員会(仮称)の決議を見届けることとする。

◇統合するにあたり、学校の場所及び通学方法、通学時間の負担等について、十分な検討が必要である。

3 恵那南地区中学校あり方検討委員会の活動経緯

(1) 協議内容

平成 26 年 6 月 6 日の第 1 回委員会から提言書提出まで合計 9 回の委員会を行い、恵那南地区の中学校のあり方について、現地視察やワーキング会議等を進め協議を重ねてきました(【資料 7】参照)。委員会では、「同じ市内の中学校で教育環境が違うことは問題である。」「避けて通ることのできない問題である。」「統合するのであれば、現在その時期にある子どもたち・近々この時期になる子どもたちの事を思うと早い方がよい。」という意見もあり、学校再編の必要性に対する理解が深まり、積極的な姿勢が見られるようになりました。

(2) 委員からの意見

委員会から次のような意見がありましたので、取りまとめ報告いたします。

◇望ましい教育環境

- ①大勢の中で切磋琢磨させる時期という認識から、複数学級が望ましい。
- ②各教科で専任の教員が配置され、専門の授業が受けられる教育環境が望ましい。
- ③生徒自身が楽しみ、活気ある学校生活を送られる環境が望ましい。

◇今後の課題

- ①出生数が今後も激減する中で、現在の複数学級が継続できなくなる。
- ②通学時間・通学方法を十分配慮しなくてはならない。
- ③学校と地域が疎遠になる不安がある。
- ④学校と地域が融合した新しいコンセプトを持った学校再編を考える必要がある。

◇課題を解決するための方法

- ①統合して複数学級を維持できる教育環境が必要。
- ②通学方法などの条件を整備する。

◇その他の意見

- ①学校が近く、現在のままでも良いのではないか。
- ②人口減少（少子化）をみたとき、今から統合について考えるべき。
- ③合併特例債の活用期限である平成31年度までに進める方が良い。
- ④遠くに学校が移動すれば、今の地域から離れて居住すると思う。

4 参考資料

【資料1】 恵那市の人口並びに児童生徒数（人）（H26.5.1現在）

恵那市の人口	53,405 (18,812)	H47年度には38,900と推定される
中学校生徒数	1,495(487)	H38年度には1,150(316)となる
小学校児童数	2,703(817)	

※()は、恵那南地区の人口及び児童生徒数

【資料2】 恵那南地区中学校の生徒数の推移（人）※H26.12月末現在（H25年度はH25.5.1現在）

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
岩邑中	157⑥	156⑥	156⑥	148⑥	128⑤	128⑤	125⑤
山岡中	124⑤	125⑤	124④	117④	112④	96③	100③
明智中	155⑥	147⑥	130④	112④	116④	114④	113④
串原中	17③	12③	12③	11③	13③	15③	17③
上矢作中	48③	47③	51③	52③	45③	39③	34③
全 体	501	487	473	440	414	392	389

	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度
岩邑中	142⑤	137⑤	133⑤	119⑤	114④	123⑤	113⑤
山岡中	102③	98③	89③	79③	74③	70③	65③
明智中	109④	117④	134⑤	122⑤	106④	95④	91④
串原中	17③	12③	14③	20③	20③	20③	17③
上矢作中	31③	31③	33③	36③	34③	36③	30③
全 体	401	395	403	376	348	344	316

※○数字は、普通学級数。現行の学級定数は、中1は35名、中2・3は40名。

【資料3】 中学校の教員定数（教諭）

学級数	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
教員定数	6	7	8	9	11	13	14	15	16	17	19

※中学校教員の定数は、学級数により配置人数が決まる。

【資料4】 恵那南地区の平成24年度から26年度までの出生数の推移（人）

	岩村町	山岡町	明智町	串原	上矢作町	全体	備考
平成24年度	36	18	39	7	13	113	H37年度に中1
平成25年度	29	19	22	4	7	81	H38年度に中1
平成26年度	27	10	19	2	9	67	H39年度に中1

※平成26年度は2月末日までの出生数。

【資料5】 各中学校の常設部活種目（H26年度）

学校名	男子部活	男女混合部活	女子部活
恵那西中	野球・バスケット・バレー・テニス・卓球	陸上・剣道・バドミントン・吹奏楽・美術・トレーニング	ソフト・バスケット・バレー・テニス・卓球・家庭科
恵那東中	野球・バスケット・テニス・卓球	陸上・剣道・吹奏楽・芸術・美術・手作り	ソフト・バスケット・バレー・テニス・卓球
恵那北中	野球・バレー・卓球		バレー・テニス・卓球
岩邑中	野球・バスケット・卓球	サッカー	バスケット・バレー・テニス・卓球
山岡中	野球・バスケット・テニス	サッカー	バスケット・バレー・テニス
明智中	野球・バスケット・テニス・卓球	陸上	バスケット・バレー・テニス・卓球
串原中	テニス・卓球		卓球
上矢作中	野球・卓球		バレー・テニス

【資料6】 恵那南地区中学校あり方検討についての説明会の経緯

地域協議会・PTA等が主催した説明会			
・10月14日（火）	上矢作コミュニティセンター	上矢作小中PTA、保育園保護者	29名
・10月20日（月）	明智文化センター	地域住民	52名
・10月22日（水）	岩村コミュニティセンター	岩邑小中PTA、保育園保護者等	44名
・10月29日（水）	山岡環境改善センター	地域住民	38名
・12月1日（月）	上矢作コミュニティセンター	地域住民	30名
・1月13日（火）	岩村コミュニティセンター	地域住民	42名
・3月10日（火）	串原コミュニティセンター	地域住民	—
あり方検討委員会が主催した説明会			
・2月10日（火）	明智文化センター	市民説明会	28名
・2月15日（日）	岩村コミュニティセンター	市民説明会	47名

【資料 7】 恵那南地区中学校あり方検討委員会の経緯

恵 那 南 地 区 中 学 校 あ り 方 検 討 委 員 会	第 1 回 平成 26 年 6 月 6 日	委員委嘱、設置要綱について、正副委員長の選任、これまでの取り組みについて、年間事業計画について、教育委員会からの提言依頼
	第 2 回 平成 26 年 7 月 15 日	現地視察（串原小中学校・恵那西中学校・上矢作中学校）
	第 3 回 平成 26 年 8 月 26 日	現地視察の感想、恵那市の中学校適正規模について「小規模教育検討委員会報告書より」各地区でのワーキング
	第 4 回 平成 26 年 9 月 29 日	ワーキング結果のまとめについて、そこから生まれる課題・不安要素について
	第 5 回 平成 26 年 10 月 30 日	各地区毎でのワーキング「テーマ：通学、委員の役割について」
	第 6 回 平成 26 年 12 月 3 日	説明会の開催状況について 各地区でのワーキング「テーマ：教育委員会への提言内容について」
	第 7 回 平成 27 年 1 月 21 日	各役職別ワーキング「テーマ：提言内容に対する意見交換」
	第 8 回 平成 27 年 2 月 6 日	提言内容の確認
	第 9 回 平成 27 年 2 月 19 日	提言内容の承認、次年度の組織（案）について
	平成 27 年 3 月 6 日 13：30～	教育委員会へ提言書の提出

5 おわりに

恵那南地区中学校あり方検討委員会では、提言書を報告するまで9回の委員会を開催し、協議を行いました。委員会の中では統合に対して、「慎重に協議したらどうか。」「早期に統合した方が良い。」「統合に変わる改善策はないか。」等の意見がありましたが、提言書に示す「恵那南地区中学校の適正配置条件」「学校の統合」については、本委員会委員の合意を示した内容となっています。

なお、この提言書には記されていない各委員のこれまでの意見や会議録等を附帯資料として添付します。

6 恵那南地区中学校あり方検討委員会委員

○地域協議会代表

- ・勝川 哲男（岩村地域協議会副会長）
- ・大庭 勝徳（山岡地域協議会長）
- ・阿部 道長（明智地域協議会長）
- ・三宅 勝継（串原地域協議会委員）
- ・鈴木 峰夫（上矢作地域協議会長）

○自治連合会代表

- ・西尾 公男（岩村町自治連合会長）
- ・西尾 忠昭（山岡町自治連合会長）
- ・中根 貞好（明智町自治連合会長）
- ・大嶋 和司（串原第3区自治会長）
- ・山内 忠良（上矢作町自治連合会長）

○学校代表

- ・足立 篤美（岩邑小学校長）
- ・丸山 優（山岡中学校長）

○中学校PTA代表

- ・榎本 錦也（岩邑中PTA副会長）
- ・成瀬 和男（山岡中PTA会長）
- ・成瀬 功一（明智中PTA会長）
- ・大島 成通（串原小中PTA会長）
- ・田之上 和代（上矢作中PTA副会長）

○小学校PTA代表

- ・吉村 政則（岩邑小PTA会長）
- ・山本 浩嗣（山岡小PTA会長）
- ・大内 鉄平（明智小PTA会長）
- ・齊藤 賢志（串原小中PTA副会長）
- ・堀 靖広（上矢作小PTA会長）

○保育所保護者会代表

- ・山本 純（岩村保育園保護者会長）
- ・小木曾 守（山岡保育園保護者会長）
- ・丹羽 英樹（明智保育園保護者会長）
- ・澤野 繁紀（吉田保育園保護者会長）
- ・中垣 野歩（串原保育園保護者会長）
- ・大島 孝介（上矢作保育園保護者会長）

○恵那南地区振興事務所

- ・西尾 茂文（岩村振興事務所長）
- ・小木曾 正英（山岡振興事務所長）
- ・門野 幸次朗（明智振興事務所長）
- ・三宅 勝彦（串原振興事務所長）
- ・熊谷 浩（上矢作振興事務所長）

○教育委員会

- ・大畑 雅幸（教育長）
- ・小林 規男（教育次長）
- ・伊藤 勝彦（教育次長）

○事務局（学校再編対策室）

- ・勝川 甲子（学校再編対策室長）
- ・水野 教正（学校再編対策室次長）
- ・市川 新祐（学校再編対策室主任主査）
- ・西尾 克子（学校再編対策室主任主査）
- ・梅村 浩三（学校再編対策室係長）
- ・市川 篤励（学校再編対策室主査）
- ・山田 耕司（学校再編対策室主査）